

秦野・八国見山の霊園開発用地

所有権移転せず着工

市議「条例違反」

秦野市渋沢にある八国見山南面区域での大規模霊園開発問題で、

事業者の公益財団法人「相模メモリアルパーク」(愛川町)が、開発区域(広さ約19・9

反する」と指摘。市側は「契約書が提出されているので問題ない。

霊園の予定地は、湘南地域の株式会社とそ

の経営者が土地を所有している。市は今年10月3日、土地所有権移

早急に手続きを進めるよう指導している」と答弁した。

転登記の手続き完了を確認していないにもかかわらず、土地譲渡契約書だけで霊園経営の許可を出し、事業者は

この許可を受けて11月10日に着工した。

さらに、墓地の永続性を担保する経営計画も明らかになっていないことが分かり、隣木議員は経営許可の取り消しを求めた。

市墓地条例では、霊園事業者は霊園経営の

許可を出し、事業者は

開発に反対する自然保護グループ「渋沢丘陵を考える会」(白置

許可申請後1カ月以内に地権者から土地の譲渡を受ける契約書を提出し、市が契約内容の履行を登記簿で確認した上で許可を出すこと

4日の市議会でのこの問題を追及した隣木順三議員(共産)は「許可後2カ月以上たっても所有権の移転が行われず、事実上、他人の土地で工事が進められているのは市条例に違

乃武子代表)メンバーは「法律や条例を厳守しなければならぬ行政が違反を承知で許可したことは、行政の信用を失墜する行為だ」と批判している。

針にも、「墓地予定地は自己所有であるこ

問題を追及した隣木順三議員(共産)は「許可後2カ月以上たっても所有権の移転が行われず、事実上、他人の土地で工事が進められているのは市条例に違

乃武子代表)メンバーは「法律や条例を厳守しなければならぬ行政が違反を承知で許可したことは、行政の信用を失墜する行為だ」と批判している。

針にも、「墓地予定地は自己所有であるこ

問題を追及した隣木順三議員(共産)は「許可後2カ月以上たっても所有権の移転が行われず、事実上、他人の土地で工事が進められているのは市条例に違

乃武子代表)メンバーは「法律や条例を厳守しなければならぬ行政が違反を承知で許可したことは、行政の信用を失墜する行為だ」と批判している。

【高橋和夫】